

Y28a デジタルドームシアターで見る皆既日食

吉住千亜紀、尾久土正己、荻原文恵 (和歌山大学)、URCF 全天映像伝送プロジェクト

2009年7月22日の皆既日食は、46年ぶりに日本国内で観測できる皆既日食として一般の人々からも多大な関心を集めた。しかし実際は、国内といっても陸地は薩南諸島の一部地域であり、ツアーの抽選に当選するか豪華客船で出かける以外は部分日食で我慢する他なかった。そこで、この皆既日食を遠隔地でも体験してもらうため、2008年度末に和歌山大学観光学部に導入した超高精細デジタルドームシアター等を使用して、皆既日食全天ライブ及び録画上映会を実施した。

我々はこれまでの日食でも静止画コマ送りによる全天中継を実施してきた(尾久土ほか、2005年マドリッド、2006年エジプト)が、今回の日食では超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム(URCF)に全天映像伝送プロジェクトを立ち上げ、4Kの超高精細の全天動画映像をライブ上映した。これは世界初の公開実験でもあった。ドームスクリーンには中継基地である奄美大島の風景と人々が映し出され、風の音や思い思いにおしゃべりする声も聞こえてくる。参加者は360度ぐると取り囲む周囲の様子を、いつでもどこでも自由に見ることができるが、現地の人々とともに現地の解説者の説明にうなずき、指し示す方向を振り返り、笑い、感動する様子が見られた。

本講演では、上映会の詳細と全国4ヶ所での上映会のうち、けいはんなプラザ(京都)で実施した参加者アンケートの調査結果を紹介する。